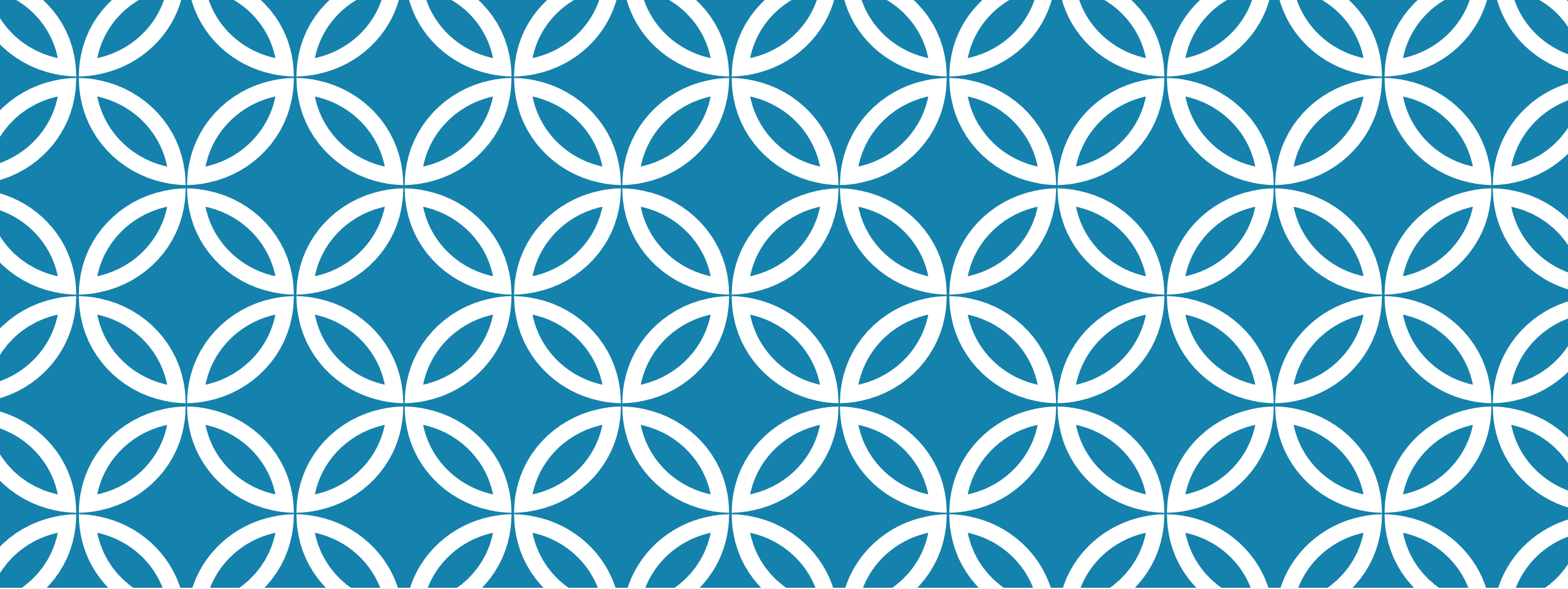
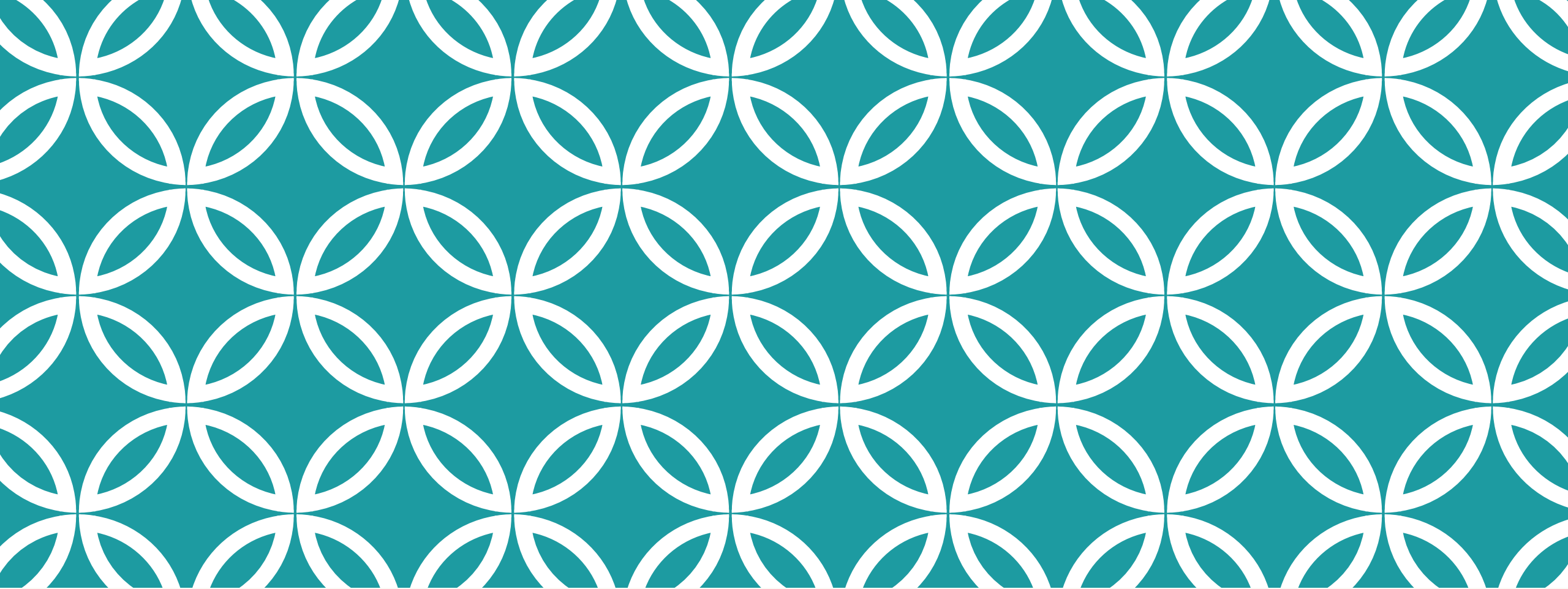




和本の種類について

熊谷学術情報課
堀 真紀





(1)日本の書物の歴史

日本の書物の歴史

年代	時代	出来事
3世紀頃	弥生・古墳時代	中国の書籍が朝鮮半島を経て日本へ伝わる
7世紀	飛鳥時代	610年：高句麗の僧曇徴により中国の造紙技術が伝わる
7世紀	飛鳥時代	現存する日本最古の書物『法華義疏』（伝聖徳太子筆）
8世紀	奈良時代	710年：大宝律令により図書寮が設けられ紙が作られるようになる
8世紀	奈良時代	日本最古の印刷物『百万塔陀羅尼』が作られる
11世紀頃	平安時代	「春日版」と呼ばれる印刷物が作られ始める
14世紀～	室町時代～	袋綴じが本格的に普及する

日本の書物の歴史

日本最古の印刷物：百万塔陀羅尼

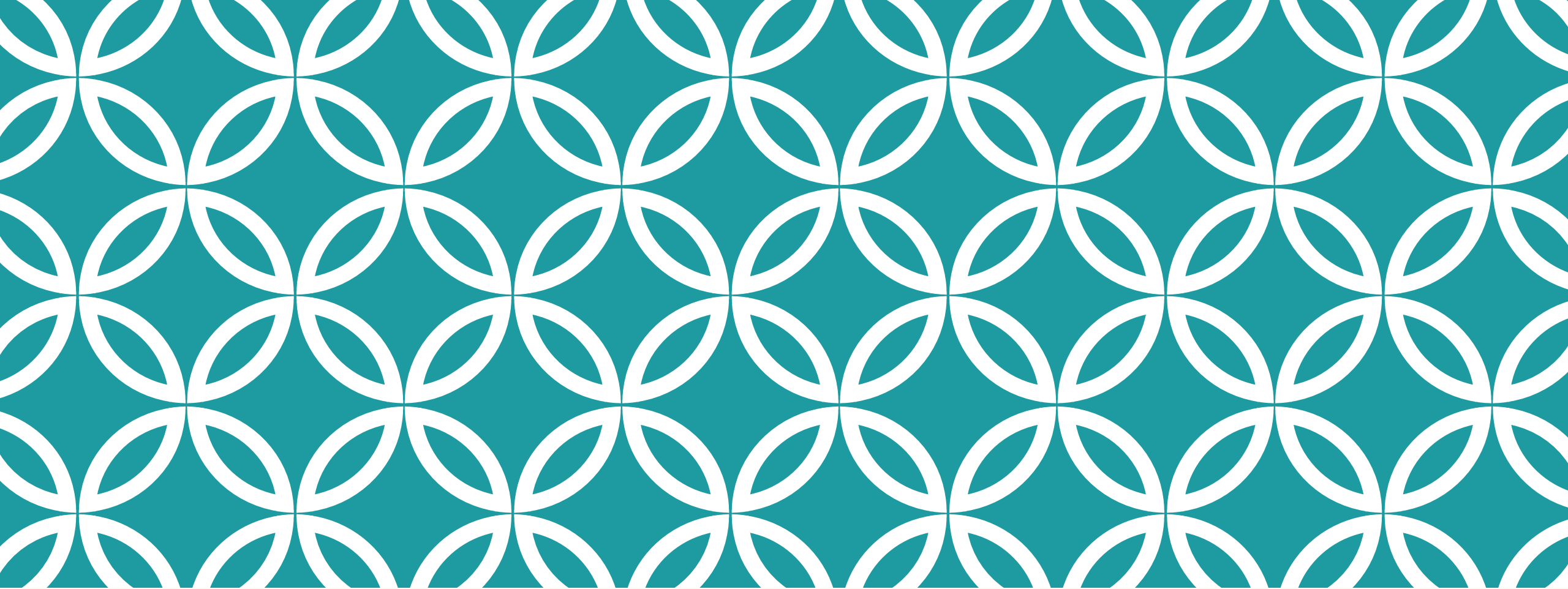


和本とは

明治の初め頃までに日本で書かれたか、印刷された書物の総称。

和装本とは

和紙を主体とした日本の製本様式の書物。洋装本に対する用語で、和綴じ、和本ともいう。



(2)和装本の装訂の種類

和装本の装訂の種類

数え方

巻、軸

じょう
帖

冊

装訂

※書物の製本・仕立てのこと

糊を使う装訂
(糊装^{こそう})

かんすぼん
卷子本

おりほん
折本

せんぷうよう
旋風葉

でっちょうそう
粘葉装
(胡蝶装^{こちょうそう})

糸を使う装訂
(線装^{せんそう})

れっちょうそう
列帖装

ふくろとじ
袋綴

和装本の装訂

①

かんすぼん

最も古い形態：卷子本

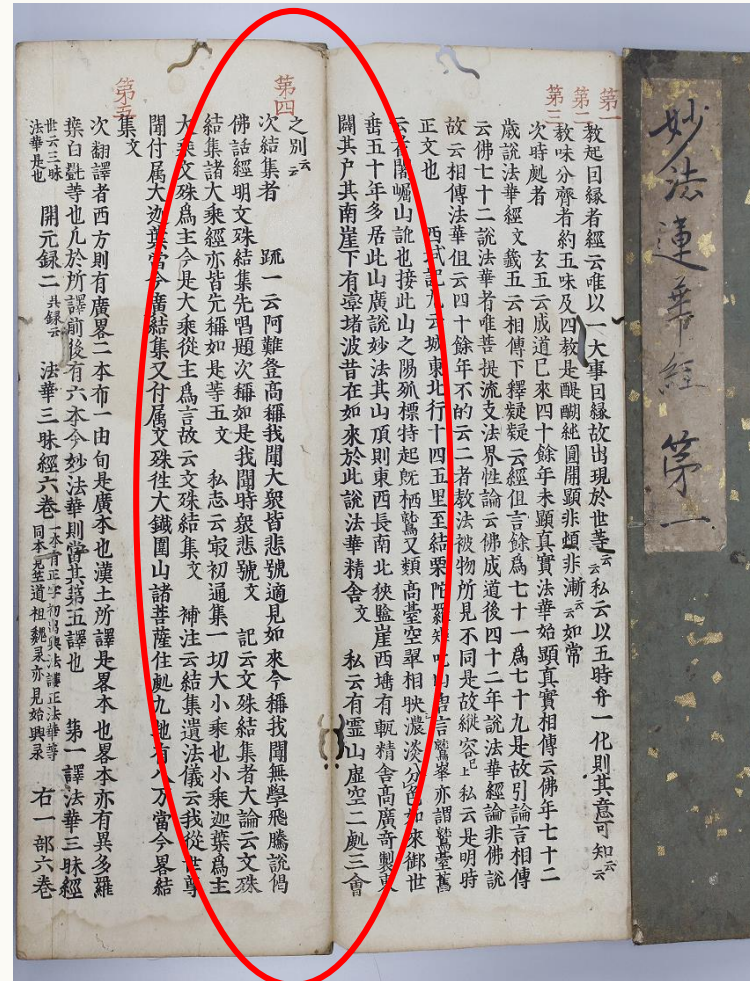
↓ 紙の継ぎ目

卷子本の欠点：一度折目がつくと直らないこと
見たい箇所まで開いたあと、元に巻き戻す必要があること

↑ 軸

和装本の装訂 ②-1

巻物の弱点を改良：折本

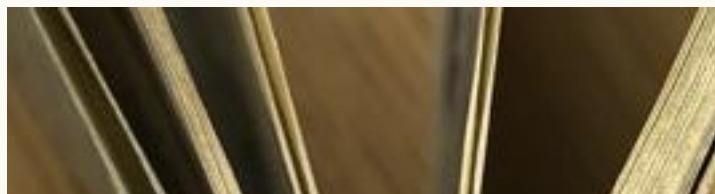


和装本の装訂 ②-2

巻物の弱点を改良：折本

せんぷうよう
旋風葉

折本の欠点：何度も繰り返し使用すると折目で切れてしまうこと



表表紙と裏表紙が繋がっている



本文の背は糊付けしていない

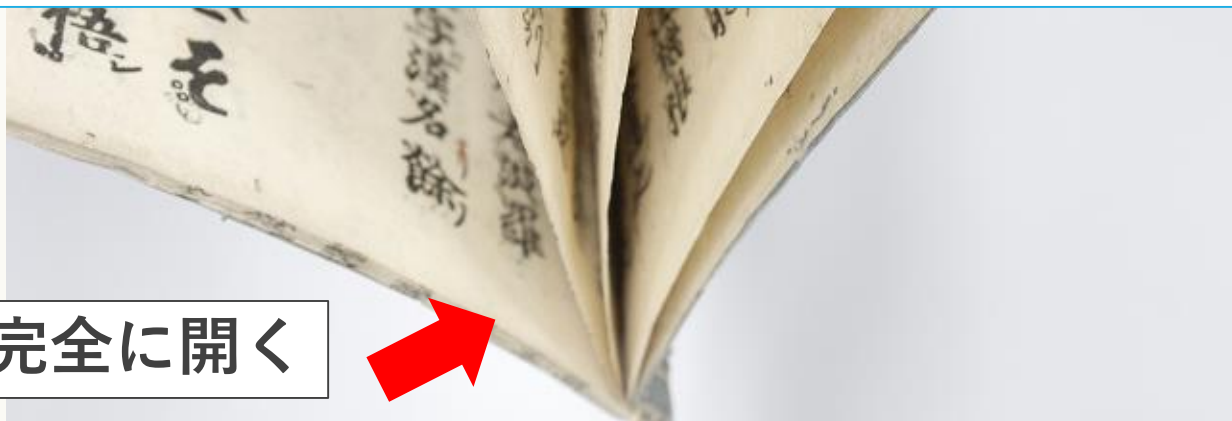
和装本の装訂 ③

折本の弱点を改良：粘葉装^{でっちょうそう}



糊付け部分まで開く

粘葉装の欠点：糊面の箇所が剥がれたり、切れたりしやすいこと
厚い本には向かないこと



完全に開く

完全に開くページと糊付け部分までしか開かないページが交互に現れる

和装本の装訂

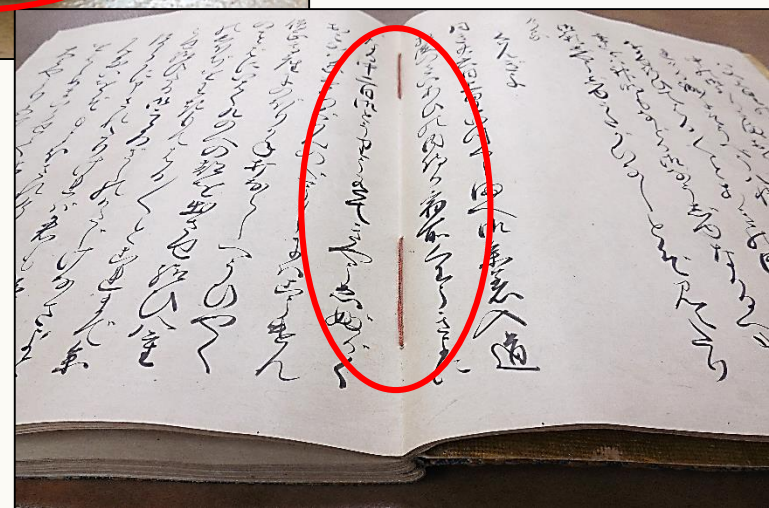
④

れっちょうそう

てっちょうそう・ていようそう

粘葉装の改良版：列帖装

(綴葉装)



和装本の装訂

⑤ 和装本の基本形：袋綴



日本のもの：袋綴
中国のもの：線装
※線＝糸のこと



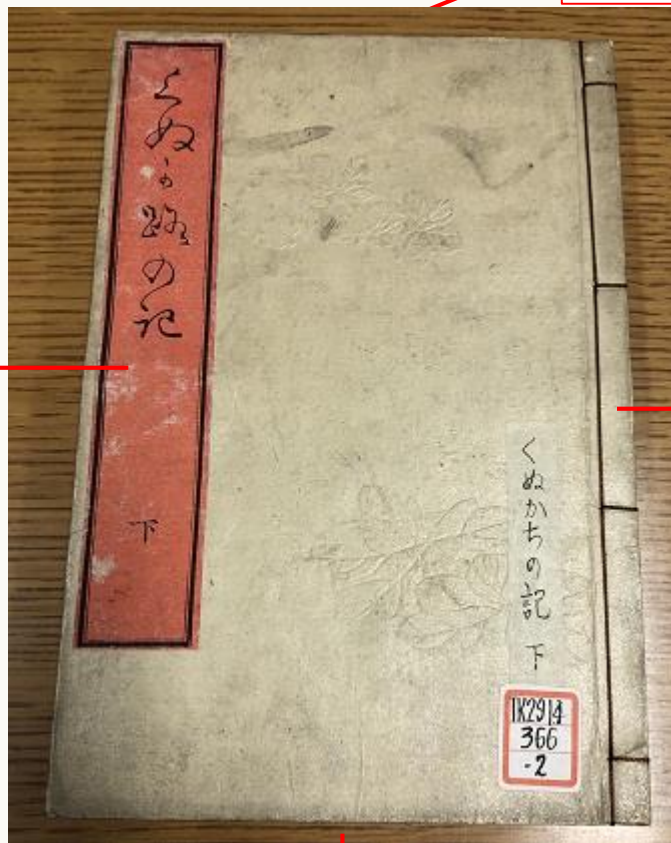
袋綴じの構造（各部名称）

天（上小口）

（だいせん）
題簽

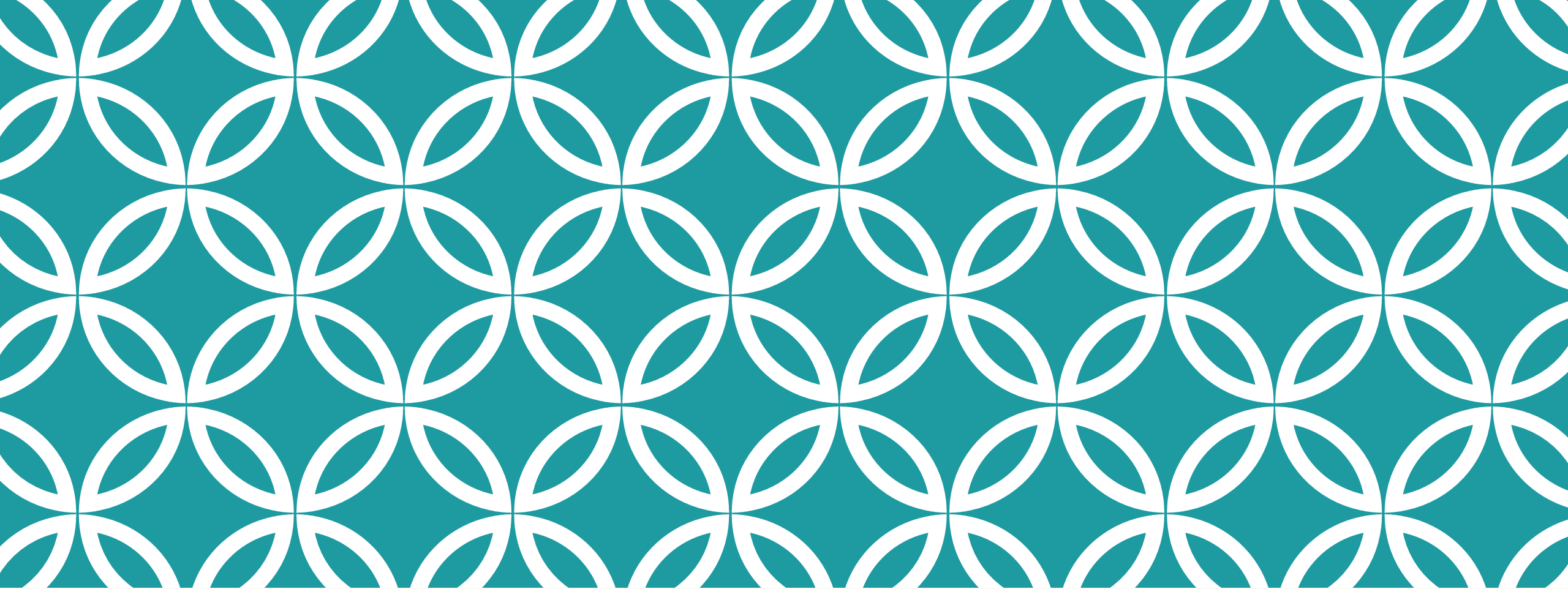
背

地（下小口）



小口書き

（かどぎれ）
角裂



(3)和装本の書型

本の大きさをジャンル分け



和装本の書形 ① 大本 内容が固い本



和装本の書形 ② 中本 歌や物語の本



和装本の書形

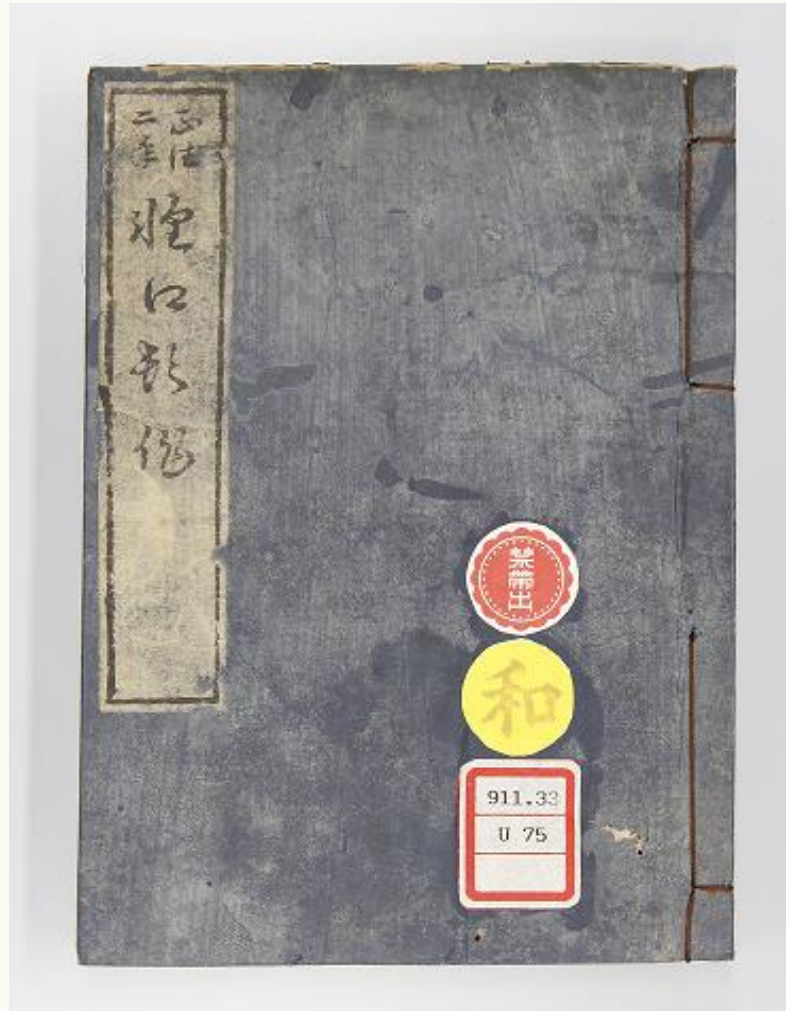
③ 半紙本

小説・絵本など



和装本の書形

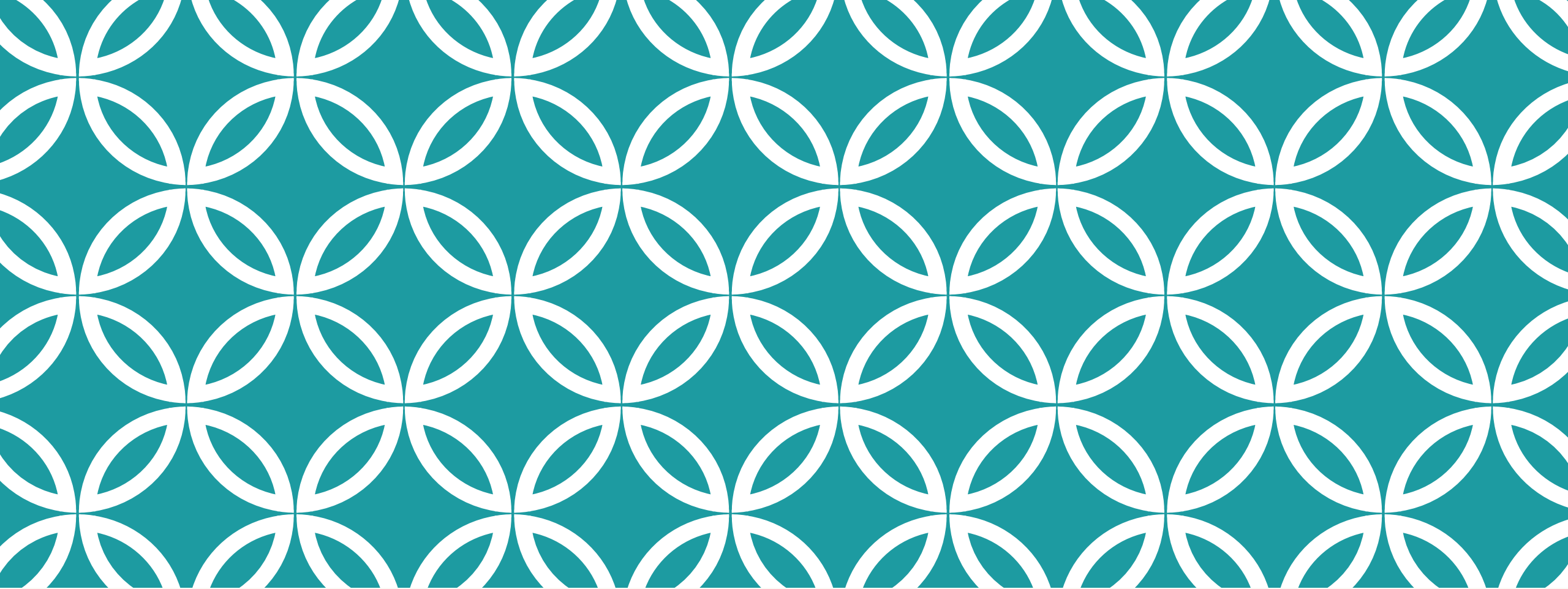
④ 小本 娯楽読み物系



和装本の書形

⑤ 横本 旅行案内など





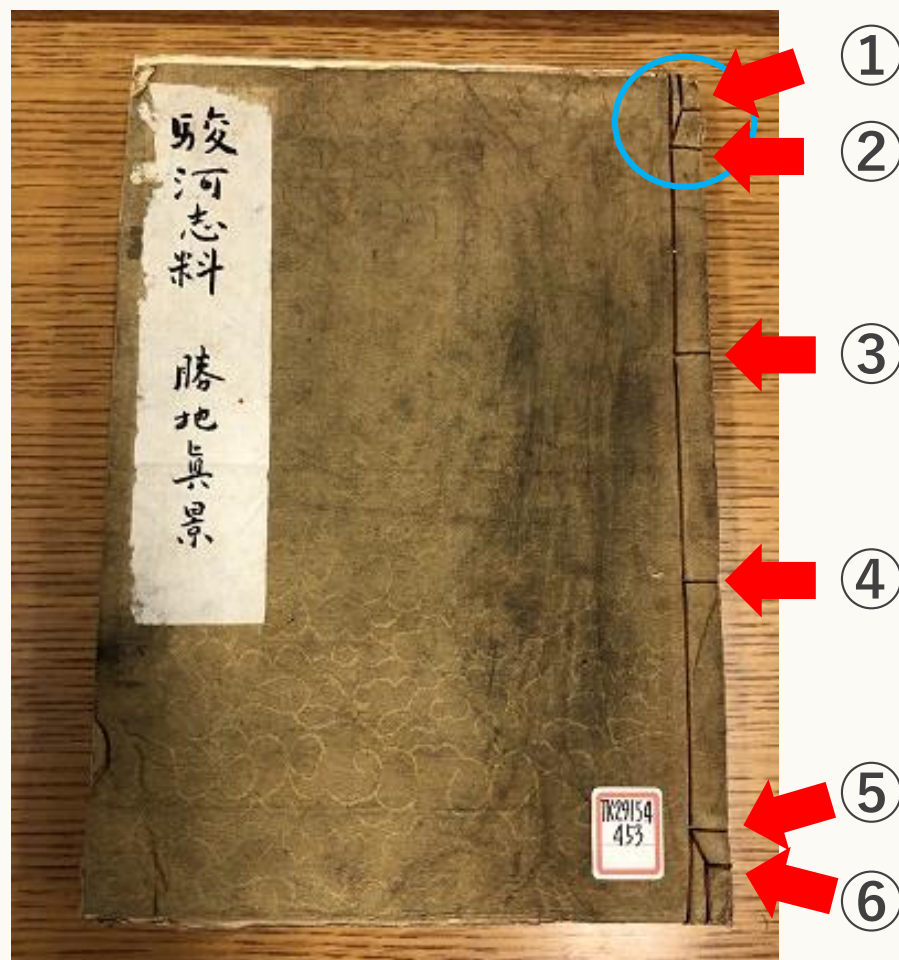
(4)和装本の綴じ方

和装本の綴じ方

よつめとし 四つ目綴

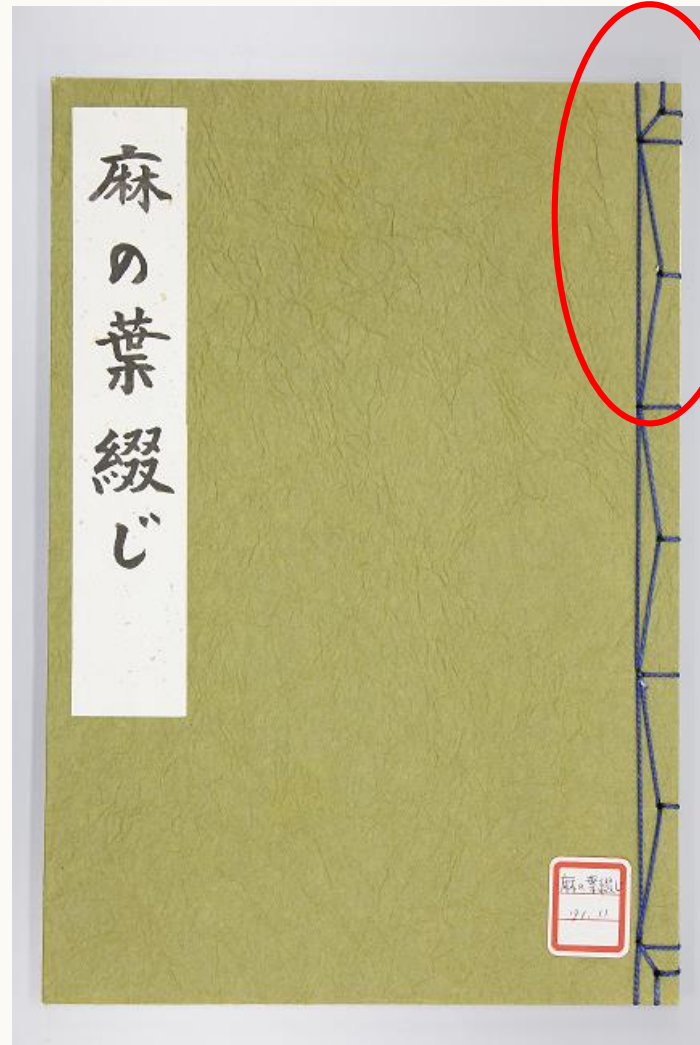


和装本の綴じ方 康熙綴



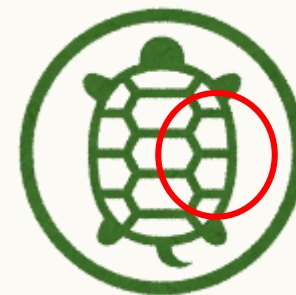
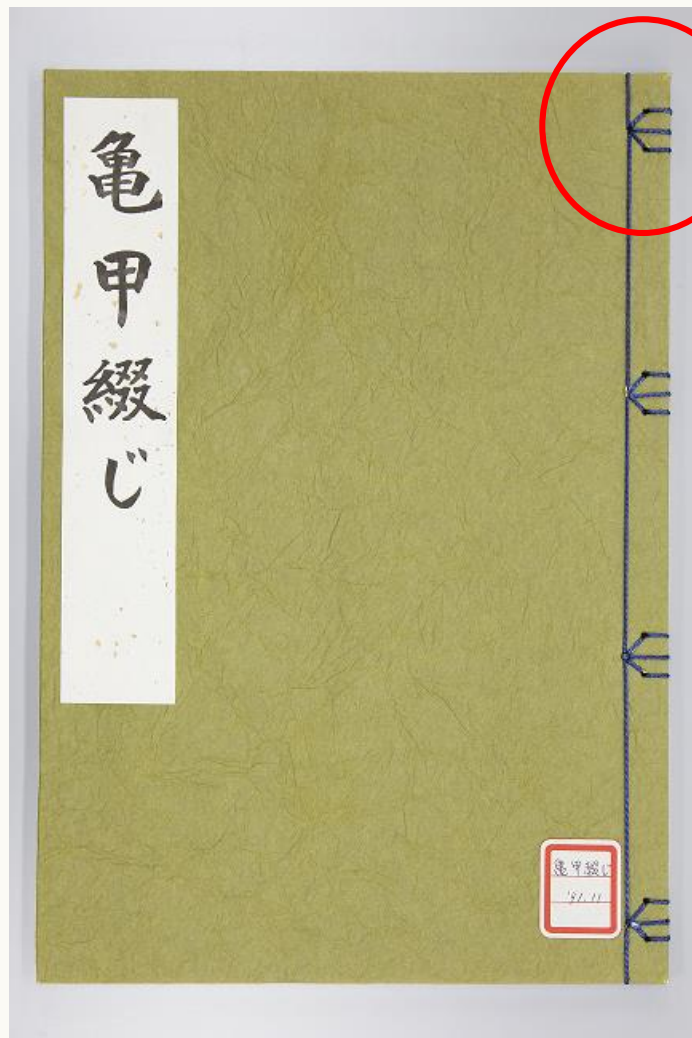
和装本の綴じ方 麻の葉綴

あさのはとし

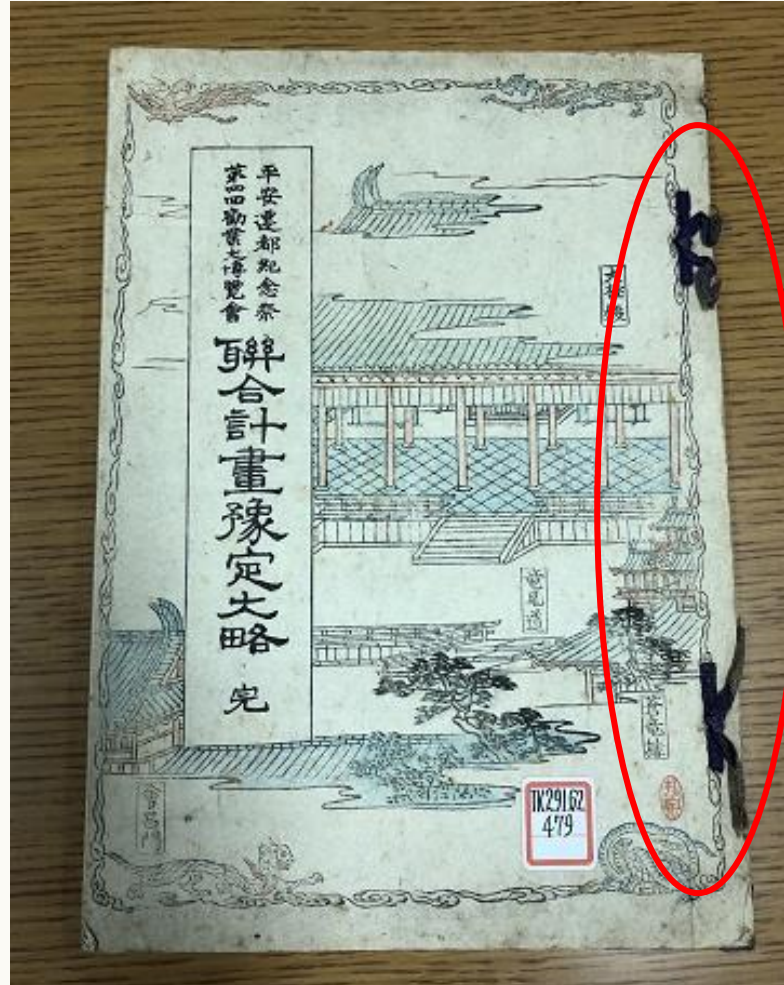


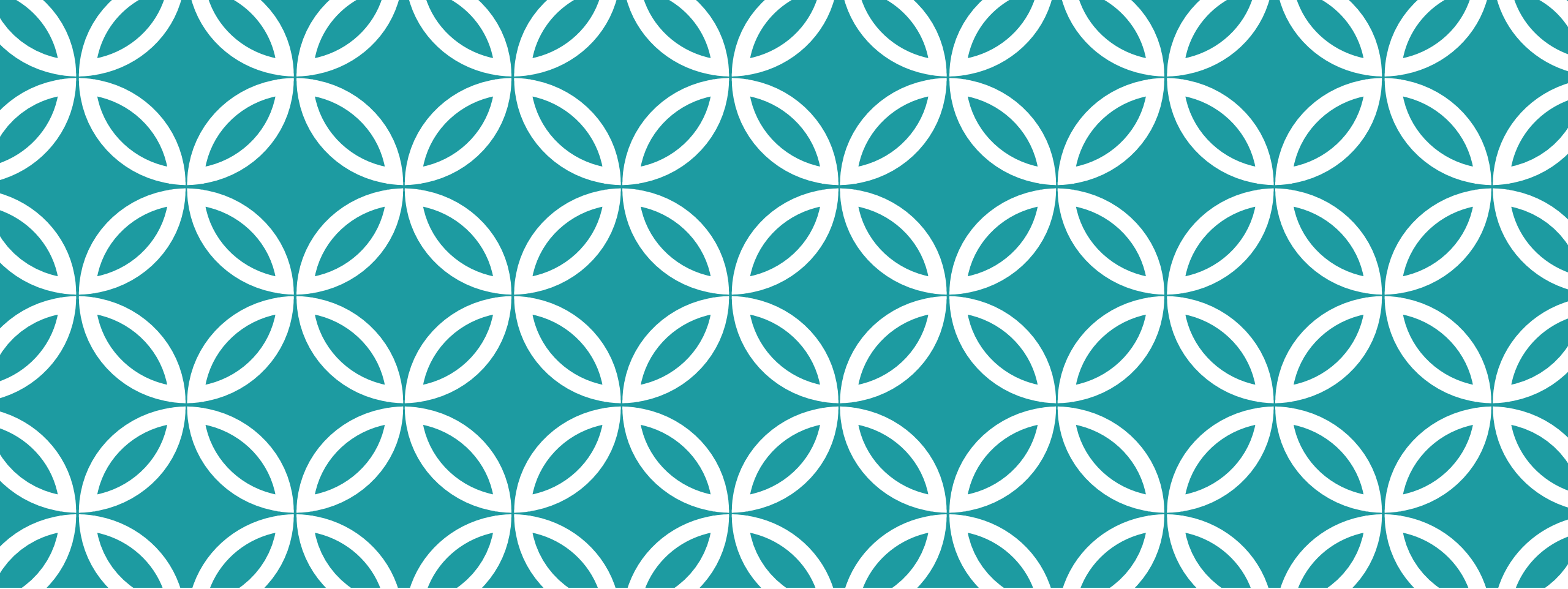
和装本の綴じ方 亀甲綴

きっこうとし



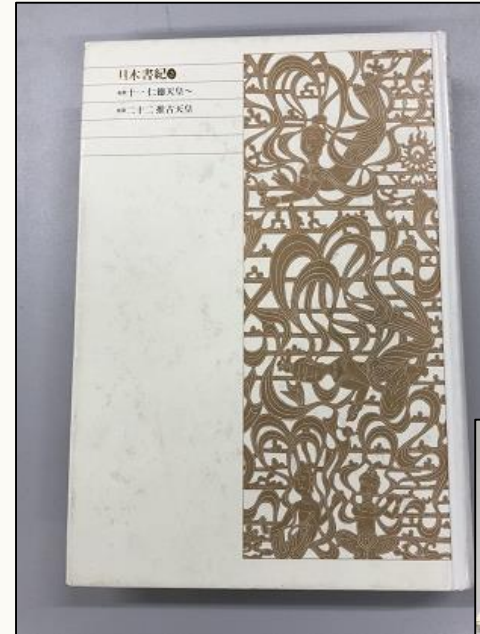
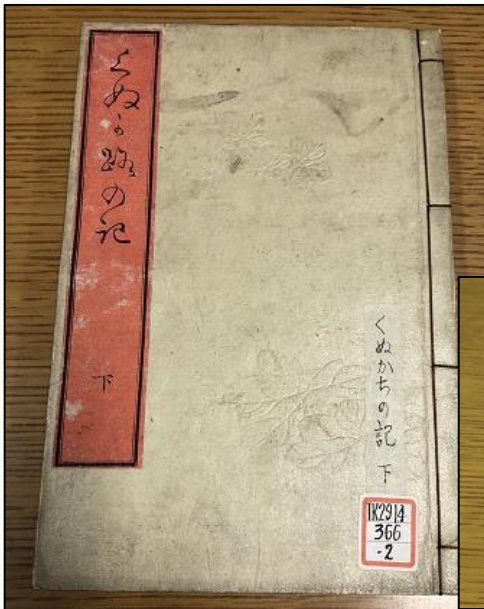
和装本の綴じ方 大和綴





(5)和装本と洋装本の違い

和装本と洋装本の違い



	和装本	洋装本
表紙・裏表紙の付き方	綴じ糸が表紙の上にある	綴じの上に表紙がある
綴じ方	袋綴じ	折りが背側
本文紙	和紙（繊維が長い）	洋紙（繊維が短い）

制作

和綴じ体験 40分



参考文献 ①

- ・文化出版局編集部編『自分で仕立てる本』文化出版局 1976年
- ・池上幸二郎, 倉田文夫著『本のつくり方：和本・洋本・帙・函』主婦と生活社 1979年
- ・上田徳三郎述, 志茂太郎筆, 武井武雄画『圖解製本』名著普及会 1979年
- ・倉田文夫著『趣味の本づくり：合本・改装本・革装本・特装本』主婦と生活社 1982年
- ・遠藤諦之輔著『古文書修補六十年：和装本の修補と造本』汲古書院 1996年
- ・小島憲之 [ほか] 校注・訳『日本書紀②』新編日本古典文学全集3 小学館 1996年
- ・廣庭基介, 長友千代治著『日本書誌学を学ぶ人のために』世界思想社 1998年
- ・図書館用語辞典編集委員会編『最新図書館用語大辞典』柏書房株式会社 2004年
- ・橋口侯之介著『千年生きる書物の世界 和本入門』平凡社 2005年
- ・ジュゼップ・カンブラス著；市川恵里訳『西洋製本図鑑』雄松堂出版 2008年
- ・村上翠亭, 山崎曜共著『和装本のつくりかた』二玄社 2009年

参考文献 ②

- ・堀川貴司著『書誌学入門：古典籍を見る・知る・読む』勉誠出版 2010年
- ・樺山紘一編『図説本の歴史』河出書房新社 2011年
- ・橋口侯之介著『和本への招待：日本人と書物の歴史』角川学芸出版 2011年
- ・日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』丸善出版 2013年
- ・稲葉茂勝文『調べよう!文字のはじまりと本の歴史』ミネルヴァ書房 2015年
- ・稲葉茂勝文『見てみよう!知っているようで知らない「本」』ミネルヴァ書房 2015年
- ・人間文化研究機構国文学研究資料館編『和書のさまざま』和泉書院 2015年
- ・伊藤洪二著『図書館のための和漢古書目録法入門』樹村房 2019年
- ・フランツィスカ・モーロック, ミリアム・ヴァスツェレフスキー著；井原恵子訳『製本大全：裁つ、折る、綴じる。知っておきたい全技術』グラフィック社 2019年

参考文献 ③

- ・『100年くらい前の本づくり：近代日本の製本技術』勉誠社 2023年
- ・小此木, 敏明, 伊藤, 善隆, 渡邊, 裕美子「立正大学図書館第五十回企画展「法華経と文学」展示書目解題」『立正大学國語國文』61 2023年
- ・井上宗雄 [ほか] 編著『日本古典籍書誌学辞典』岩波書店 1999年

ご清聴ありがとうございました